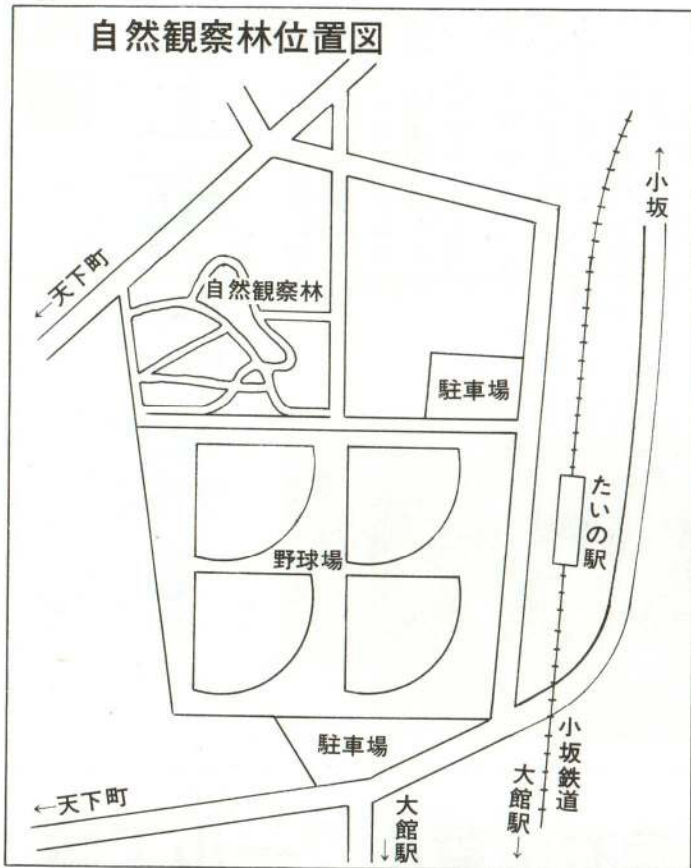




いろいろな樹木の「博物館」

健康ひろば「自然観察林」



何げなく夏休みを過ごしている小・中学生の皆さん、市民健康ひろばにある自然観察林に出かけてみてはいかがでしょう。樹木のすばらしさを発見できるかも知れませんが、自然観察林は、市街地の東、小坂鉄道たいの駅の北側にあります。かつて大館営林署が希少樹林などを集めた見本林であったところで、広さは約四万平方メートル。ここには、ブナ、スズカケノキ、イヌエンジュなど、広葉樹を主とした樹木が数十種あり、名称と分類目を記した名札が付けられています。また、約一・二kmの遊歩道やベンチが整備されています。また、気軽な服装で出かけても、さまざまな樹木をじっくりと見比べながら観察したり、森林浴をしたりすることが出来ます。

今の季節、林内ではセミが鳴き、トンボが飛び回って、所々に群生しているククイモの黄色い花にモンシロチョウが舞っていて、強い日差しは樹木の葉にさえぎられ涼しい風が吹く別天地です。

ここで見られる樹木

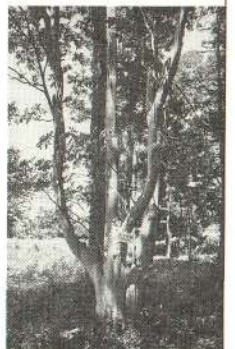
アオダモ、アブラチャン、イタヤカエデ、イチヨウ、イヌエンジュ、エゾマツ、カツラ、カラマツ、クマシデ、クリ、クワリン、ケヤキ、コナラ、コブシ、サクラ、サトウカエデ、スギ、スズカケノキ、チヨウセンゴヨウ、ドイツウヒ、ハリギリ、ハルニレ、ハンノキ、ヒノキ、ブナ、ホオノキ、ミズキ、モミヂハスズカケノキ、ヤチダモ、ヤマグワ、ヤマナラシ、マヤボウシ

樹木一口名鑑

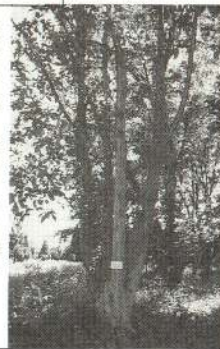
スズカケノキ
(スズカケノキ科)
プラタナスとも呼ばれ、大気汚染にも強いので、街路樹としてよく植えられている。直径三センチほどの実を枝にぶらさげることからこの名が付いた。



アオダモ (モクセイ科)
山地の湿り気が多いところに自生し、樹高は二十メートルになる。初夏に枝先に白い花が円錐状に咲き、へん平て翼のある実を付ける。



ホオノキ (モクレン科)
日本の特産種の一つで山地に自生し、五月ごろ枝の先端に強い香気を放つ大きな白い花をつける。材質は柔らかく黄色味を帯び、版木、下駄の歯などに使用される。



ケヤキ (ニレ科)
東アジアの温帯に多く、山地に自生して、生長が速く、大木も日本各地に多い。大館には樹齢七百年以上の古木が出川にあり、市文化財に指定されている。

